



岩手県教育研究所連盟事務局
岩手県立総合教育センター
〒025-0301 花巻市北湯口2-82-1
平成17年5月27日発行 第5号

<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyouren/>



県教連のさらなる発展を

岩手県教育研究所連盟 会長 吉川 健次

(岩手県立総合教育センター所長)

岩手県教育研究所連盟は、県内各地の教育研究機関相互の連携を密にし、教育に関する研究調査の充実促進を図り、もって本県教育の推進向上に寄与することを目的として、昭和33年に発足し、本年度で47年目になります。特に、今回の開催地であります陸前高田市教育研究所は、岩手県教育研究所連盟発足時、教育センター、大船渡市教育研究所とともに加盟した3機関の一つであり、以来、本連盟の運営及び充実・発展にご協力をいただいております。現在は、一昨年度の二戸市教育研究所の加盟により、県内の教育研究所は25機関となっております。

定期総会後の研究協議会及び翌日の全体会では、各教育研究所から提出された協議題等をもとに話し合いが行われました。

協議題として要望の多かった内容は、「研究所における所員・研究員等の研修・研究」「学力検査の分析と活用」「社会科副読本の編集と効果的な活用」「不登校・学校不適応児童生徒への対応と連携」などでした。研究協議会では、

これらの内容も含めて、「教育研究所に期待される役割に関する分科会」「学習指導の改善等に関する分科会」「児童生徒の教育的支援、情報教育等に関する分科会」の三つの分科会に分かれて、研究協議を深めました。また、その協議に先立って行われた各研究所からの事業計画の交流では、「教員の資質の向上」「児童生徒の実態調査」等、様々なテーマにおける意見交換が行われました。2日間にわたる研究協議の成果を各研究所の今後の運営や研究・研修等に役立てていただければ幸いです。

10月には、花巻で開催される東北地区教育研究所連盟・教育研究発表大会を本連盟の所員研修会として合同開催いたします。よりグローバルな視点で教育課題の解決を目指すことができますように多くの先生方のご参加をお願いいたします。

最後になりましたが、今回の定期総会・研究協議会の開催にあたり、お世話いただきました陸前高田市教育研究所に厚くお礼申し上げます。

平成17年度定期総会の報告

平成17年5月11日(水)～12日(木)の二日間、陸前高田市の『キャピタルホテル1000』を会場にして、平成17年度岩手県教育研究所連盟定期総会及び研究協議会が開催されました。

定期総会には、来賓として新沼敏哉大船渡教育事務所長、伊藤壽陸前高田市教育委員会教育長をお招きし、昨年度事業についての報告並びに今年度事業予定についての承認がなされました。また、夜に行われた情報交換会では、所員の親睦を図るとともに、各研究所の事業内容の交流を図ることができました。

定期総会で報告された昨年度事業と承認された今年度事業は右のとおりです。

【昨年度事業】

1 所員研修会

期日 平成16年12月3日(金)

内容 学校を活性化させる組織マネジメント

講師 宮城県塩釜市立第三中学校長 武田光彦氏

参加者 25機関 73名

2 岩手県教育研究発表会後援

期日 平成17年2月8日(火)～10日(木)

内容 教育研究所の発表

10機関、8分科会、12テーマ

【今年度事業】

1 所員研修会

平成17年10月14日(金)

2 岩手県教育研究発表会後援

平成18年1月12日(木)～13日(金)

平成17年度研究協議会の報告

研究協議会は、一日目に3分科会に分かれて協議が行われ、二日目に全体会が行われました。一日目に行われた分科会では、協議の柱に沿って活発な意見が出されました。また、二日目に行われた全体会でも、各研究所の効果的な実践例が発表されました。今後の各研究所の取り組みの参考となる発表が多く、大変有意義な研究協議を行うことができました。以下にその報告をいたします。

第1分科会

分科会テーマ

『教育研究所に期待される役割等に関する協議会』
司会者 大船渡市教育研究所 三浦和人指導主事
記録者 花巻市教育研究所 高橋節夫指導主事

《各研究所から》

「教員、教育の質の向上」(盛岡市)、「市町村合併による新たな課題」(水沢市、室根村)、「学社連携の取組と効果」(千厩町)、「学力向上対策」(陸前高田市、釜石市、遠野市)、「意識調査」(大船渡市)等について情報提供や意見交流が行われました。

《協議》

「開かれた学校」における「外部評価」等に関連して、「教育振興運動」への学校の積極的なかわりなど、共通理解が図られていくような機会を設定していくことが必要であるという意見が出されました。さらに、「親や地域の責任」についての評価の必要性、保護者や地域のニーズをしっかりと把握すること、学校評価の目的を十分に理解してもらうこと、学校には「評価」ではなく「意見」を聞くという姿勢で取り組んでもらうようにしたいこと、評価項目は学校の特色に応じたものであること、評価を公表する場合は家庭も地域も共通理解のもとで一緒に考えていくことができるようにしていくこと等が協議の中で話題となりました。

研究所の担う役割や課題の多様化、複雑化がうかがわれた第1分科会の協議でした。



第2分科会

分科会テーマ

『学習指導の改善等に関する協議会』
司会者 大船渡市教育研究所 熊谷佳美指導主事
記録者 久慈市教育研究所 佛川恒明指導主事



《各研究所から》

「CRT・NRT、学習定着度状況調査の実施と活用」(紫波町、前沢町、衣川村、一関市、陸前高田市、大船渡市、山田町)、「市町村合併による事業推進上の課題」(一関市、久慈市)、「特色ある刊行物の作成」(花巻市：小学校英語活動、胆沢町：家庭教育の手引き)等について、様々な意見交換が行われました。

《協議》

学力向上に関連して、CRTやNRTの特徴を生かした活用や学習定着度状況調査とのかかわり、事後指導等を見通した実施時期の工夫、家庭生活と学力のかかわり、国・県・市町村の分析結果を関連させ検討する必要性、教務主任レベルによる結果分析と対策検討の必要性等について、論議が交わされました。

また、学校不適応や家庭との連携について、家庭教育の欠如と社会教育との連携の必要性、教育振興運動との連携の在り方、家庭の役割としての具体的な行動項目一覧の配付と啓発活動、不登校の傾向の変化に伴う福祉事務所等との連携の必要性等について、報告及び協議が行われました。

本県の重要な教育課題の一つである学力向上とともに、特に近年、大きな課題となってきた学校不適応が論議の中心となった第2分科会でした。

第3分科会

分科会テーマ

『児童生徒の教育的支援・情報教育等に関する協議会』

司会者 住田町教育研究所 吉田 修 主任指導主事

記録者 宮古市教育研究所 及川公子 指導主事

《各研究所から》

子供の実態把握（紫波町）や生活調査（衣川村）の実施と活用、道徳・家庭・食の関連を研究（紫波町）、中1における学校不適應調査（一関市）、就学前の取り組み（保育士と小学校教員との連携・交流）及び小中高の連携（住田町）、学力向上研究委員会における事業の充実（依頼による授業提供）（陸前高田市）、不適應対策の重点化（宮古市）、学校指導課としての取組（久慈市）等について、情報提供が行われました。

《協議》

研究員の自薦にかかわって、積極的に取り組む意識を啓発する必要があることから、自主性を大切にしていくこと、学校規模の違いによる依頼の負担に配慮すること、研究員を指名して依頼することも検討していること、研究員の募集にあたり研究内容を示していること、また、教育事務所や教育関係団体との連携、学校長との緊密な連携と協力が不可欠であること等が協議の話題となりました。

また、不登校対策について、学校でできることは既に行われており、児童生徒の傾向にも変化がみられることから専門機関との連携が必要となっていること、特に情緒的、心理的な問題をもった児童生徒に対応するためには福祉等専門機関との連携が重要であること、小中の引継ぎにおける多様な情報提供によるきめ細かい担任の対応の可能性、福祉行政と教育行政の連携等、幅広い意見が出され、多面的な視点での協議が行われました。

不登校の現状の複雑さと対策の難しさが話題となった第3分科会でした。



全体会

分科会報告、まとめの協議

司会者 総合教育センター 齊藤義宏 研修主事



全体会では、各分科会の報告とそれに対する質疑応答を中心に協議が行われました。

第1分科会の報告を受けて、教育研究所の役割等について協議が行われました。その中で、地域に開かれた学校づくりに関連して、研究所として外部評価のシステムを提案し、地域や学校の実情を考慮した学校主体の外部評価を試行するという構想と事例が紹介される等、学校の活性化への手だてが報告されました。

第2分科会の報告を受けて、学力向上対策及び学校・家庭の連携を中心に協議が行われました。その中で、学力向上対策に関連して、教師と子供のかかわりの希薄さが指摘され、教師が子供を慈しむ心をもち、教員の資質の向上を図りたい、という意見が出されました。

第3分科会の報告を受けて、不登校対策を中心に協議が行われました。その中で、不登校生徒の中における虐待や放任の比率が、通常の生徒よりも高いという調査があり、福祉関係の専門機関や臨床心理士等の協力も必要になっているという報告がありました。

最後に、まとめとして総合教育センター次長が講評を行い、学校評価は地域に理解してもらうこと、学力検査に関連して、地域の特徴と学校の特徴の両面を意識すること、特別支援教育に関連して、今後地域の養護学校との組織的連携が必要であること等が確認されました。



研究協議会（分科会）及び全体会の協議の中で、教育相談や不登校、適応指導等にかかわる話題がありました。そこで、ソーシャル・スキルについて・・・

ワンポイント掲示板

ソーシャル・スキルとは・・・人間関係に関する基本的な知識と具体的な技術やコツ

ソーシャル・スキル教育の基本要素

1 人間関係についての基本的な知識
例)・友だちの遊びに加えてもらうためには？ 友だちと仲直りをするためには・・・？
・ルールやマナー・・・等

2 他者の思考と感情の理解の仕方
例)・友だちは何を考えているのか、どう感じているのか等を理解することで、良い関係を築くきっかけとなります。

3 自分の思考と感情の伝え
例)・自分はどのように考えているのか、どうしたいのか等をはっきりさせる。それを、その状況等に合わせ、どのように伝えるか？
・感情のコントロールの仕方等

4 人間関係の問題を解決する方法
例)・人から誤解されたり、無理な要求をされたり、また、自分の思い通りに事が運ばない等の状況にどう対処していくか、その手立てを考えます。

*ソーシャル・スキルトレーニングは、対人関係についてのルールやスキルを教えることにより、対人的な適応力の向上を目指すものです。適応力不足は、「いじめ」や不登校、さらには成績などとの関連も指摘されています。

問題に対する対症療法的な活用にとどまらず、予防的な活用も可能です。
(例えば、新年度における学級集団の人間関係づくり等)
また、同様の人間関係づくりにかかわる手だてとして「構成的グループ・エンカウンター」があります。ソーシャル・スキルによる児童生徒の状況をみながら併用もできます。

(参考資料：総合教育センター・研究資料(教育相談室))

「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる・小学校」図書文化)

総合教育センターでは、各研修講座や随時研修等により、先生方の研修を支援しています。お気軽にお問い合わせください。当センターのWebページから、講座等の内容の閲覧が可能です。

平成17年度岩手県教育研究所連盟役員

定期総会で平成17年度の役員が次のように決定しましたので、ご報告いたします。
本年度もよろしくお願いたします。

会長	吉川 健次	教育センター所長
理事	菊池 直	盛岡市教育研究所長
	佐藤 拓美	花巻市教育研究所長
	松村 仁	陸前高田市教育研究所長
	種市 進	教育センター次長
	佐々木龍孝	教育センター研修部長
監事	川原 博	矢巾町教育研究所長
	川村 秀彦	紫波町教育研究所長
事務局	澤藤 耕平	教育センター教育調査室長
	石川 悦也	教育センター研修主事
	齊藤 義宏	教育センター研修主事

事務局から

義務教育制度全体の見直し作業が中央教育審議会で、今年の秋頃をめぐりに行われています。その内容として、義務教育費国庫負担制度の在り方の他、学習指導要領の見直しも進められており、総合的な学習の時間の取り扱いや授業時数、義務教育の到達目標の明確化などが挙げられています。教育研究所としてどのような対応が求められるのか。今秋の動向が注目されます。

また、秋といえば、10月14日に行われる所員研修会は、東北地区教育研究所連盟の研究大会合同開催となります。たくさんの先生方の参加をお願いいたします。

岩手県立総合教育センター内(教育調査室)
Tel 0198-27-2833(直通) Fax 27-3562